

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成熟  
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20  
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2017年  
1月号

Mathematics Abacus Chinese character

# MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

## これからの教育を考える

### ～A I 時代を生きる子たち～



新しい年となりました。みなさんにとって去年はどんな年だったでしょうか。また、今年はどうな年にしたいですか？色々と思いつかべることはあるでしょうが、何よりもまず元気が一番！怪我や病気をしないように体調管理をしなければ、思いつかべる事を実行する事はできません。生活習慣（特に睡眠は大切です）や食習慣をしっかりと見なおし、元気な一年にしましょう！（と、自分に言い聞かせています・・・）

昨年も MAC NEWS では様々な話題を取り上げてきました。

今年最初のNEWSでは昨年取り上げた内容を再度まとめ、今年、来年以降の進むべき方向性について考えたいと思います。

## 今の子供たちの65%は、今ない職業に就く

ニューヨーク州立デューク大学のキャシー・デビッドソン大学院教授はこう言います。この数字は専門家の中ではほぼ確実な数字とされています。

確かに我々が子供だった時はケータイのアプリを作る会社などありませんでしたし、たった数年で数百億の売り上げを上げる会社になるなど予想できませんでした。介護・福祉の業界もここまで大きな市場規模ではありませんでした。今後はドローンのプログラミングをするプログラマーが大量に必要なだろうという声もあります。

## 10~20年後、約47%の仕事は自動化される

こちらはオクスフォード大学のマイケル・A・オズボーン准教授の打ち出した予測です。彼はAI（人工知能）の研究をしており、そのAIが人間の職業の約半数を奪うと主張しています。これは日本の文部科学省も認めており、前文部科学大臣の下村博文氏（初めて塾の先生から文部科学大臣となられた方です）は以下のように話しておられます。

今のままの教育を続けていたら失業者をどんどん出すことになる。偏差値エリートだけでもはやダメで、全ての働く人が主体的に問題解決に当たり、クリエイティビティを発揮し、人間的な感性が求められるんですよ。そうでないと社会で使い物にならない。これはこれからの時代を生きる人全てに問われる問題です。

なのに、どれだけの親がその事実を認識しているのでしょうか？

日本の教育についての認識には、40年の開きがあると常々感じています。ほとんどの親は自分の受けてきた教育を例に出して、同じ物を我が子に伝えたいと言う。言わば20年前の話をしている。そして、社会一般の今の教育課題がある。つまり、20年前、今、20年先の話が一緒になっているところがある。

## 京都のトップ校の校長が嘆いている

だいたい毎年9~10月頃に各学校は塾に対し「学校説明会」を開かれます。各学校の特徴や特色を良く理解し、各塾でミスマッチのない進路指導をして貰うためです。当然MACも京都のほぼ全ての説明会に足を運び、勉強をしています。

そんな中、ある京都のトップ校の校長が嘆いておられました。

「我が校に入学してくる子の約7割は大手の進学塾に通っていた子です。その子たちは塾で、我が校に受かるための勉強をしています。つまり自分で学ぶのではなく、塾に『してもらおう』勉強をしてきているのです。その子たちは入学した後、自分で学ぶ力が無いのでどんどんついて来られなくなります。残りの3割の生徒は塾に通わなかったり、地元の地域密着塾（MACはこれです）に通っていた子です。この子たちは自分で学ぶ力があるので、我が校に入学してから大手塾出身者たちを追い抜いていきます。

もうね、今の時代偏差値だけ高くて自分で考えたり行動出来ない子は必要とされないんですよ！先生方、受験テクニックや過去問指導もいいですが、そうではなくもっと自ら考えたり行動出来る子を育てて下さい！」

塾対象の説明会としてはかなり過激な内容の発言だったと思います。しかし、それだけ校長先生は現場を見て危機感を持っておられるのでしょう。

恐らく参加されていた塾の先生の多くはドキッとされたと思います。なぜなら、ほとんどの塾は「目の前のテストで高得点を取らせるため」「志望校に合格させるため」というのを第一目標にされているからです。

MACも塾なので当然成績を上げることや、志望校に合格することを目標としています。しかし、それは第一目標ではありません。自分で考え、自分で計画を立て、自分で学べるように育ててあげる事が第一目標で、その結果成績が向上し、志望校合格を目指すようになるので、いわば第二目標なのです。

その第一目標が達成出来ていれば、もし成績がそこまで優秀でなく、一流大学へ行けなかったとしても、社会に出てから困ることはありません。ですので、このトップ校の校長の話は「そうそう！」と頷うなずきながら聞いていました。

## これからの教育はどうなる！？

これらのことを受け、文部科学省は、

子供たちに「何を教えるか」だけでなく、子供たちが「どのように学ぶか」という視点が重要であり、「アクティブ・ラーニング」できるよう授業を改善し、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習を充実させていくことが求められている。

と述べています。やっとならば黒板を使つての先生が主役、生徒は受け身という授業は時代遅れだと気づかれたようです。

また、先述のキャシー・デビッドソン大学院教授も、

今教えている知識だけでは子どもたちの生活に生かすことは出来ないかもしれない。そう考えると、大切なのは「学ぶことを学ぶ」ということだと思います。そのためには、私は「学ぶことを楽しむ」必要があると思っています。でなければ学び続けられないでしょうから。ぜひ先生方には、固定概念を外し、新しいことに挑戦していただきたい。

と、文科省と同じようなことを述べられています。

MACでは小学部の間は学校準拠の内容は最低限、その代わり積み木やパズルなどを使用し「学ぶことを楽しむ」ことを通して、自学自習の基礎を作ってもらっています。

中学部では学校の授業のスピード・難易度が小学校の3倍、さらにクラブも小学校の頃と比べものにならないくらいハードになります。このとてもしんどい時期にどう乗り越えるか、限られた時間でいかに勉強に取り組むか、というバランスを自分自身で見つけることが大切です。

初めの頃は、なかなかすぐにテストの点数に表れないかもしれません。

しかし、テスト前に学習計画表を作成し、テストが終わったら結果と計画を見比べ今回の計画は適切だったのかどうか検証する・・・というプロセスを繰り返す中でだんだん見えてくるのです。今の頑張りや社会人になってから絶対に役立つものとなります

MACの小学部、中学部で取り組む内容は違いますが、「社会に出てから困らない子に」という理念は同じく、この一年も指導して参ります。ご理解とご協力お願い致します。

# 「親子で育脳トライアル」いかがでしたか？

年々楽しみにしているという方が増えてきている「親子で育脳トライアル」。今年も小学生には全員配布致しましたが、楽しんで頂けましたでしょうか？

なぜ毎年 親子で育脳トライアル を配布するのか？大きく理由は二つあります。

一つは「家族で共有する時間を増やして欲しい」という点です。

最近は夏休み、冬休みなどの長期休暇中でも親御さんの仕事が忙しいご家庭も多いですし、子ども自身も塾・他の習い事・友達付き合いなどなど大忙しです。長期休暇だからといって一概に家族で過ごせる時間が増えるという訳ではありません。

その上ケータイやパソコン、タブレット、ゲームなど 1 人でのめり込めるアイテムが溢れかえっていますので、家に家族でいるけどそれぞれがバラバラに好きなことをしている・・・ということも多いのでは？

そんな中このアナログな取り組みで、家族バラバラではなく、家族一緒に盛り上がってもらえればと思っています。

そしてもう一つは「我が子の成長を感じて頂くため」です。

毎年 12 月に行っていますので、入塾して数年経つ方は一昨年より去年、去年より今年と、我が子に負ける事や、我が子の成長に驚かされることが多いのでは？

どうしても子供の成長は数字で見えるものでしか気づきにくいのですが、親子で育脳トライアルを通して数字では見えない部分の成長に気づいて頂きたいのです。

親御さんがそれに気づき、褒めて頂ければ子供は嬉しく思い、また次も頑張ろうというモチベーションのアップに繋がるのです。

頂戴した感想の一部をご紹介します。

子供の成長に驚いています。

保護者欄

いつも お世話になっております。 最近怒らばかりで あり  
向又合えてないよと思っアにところは「親子で育脳トライアル」を 持て帰りました。  
今回は親の方が余裕でしたが、今回は手加減と出来ず… 子供の成長に驚いてます。  
何故仲間はずれにするの??と悩んでいる面は負けてしまっア、その説明を 負子がしてくれアと  
親子で楽しむことが出来ました。(点描写は まだまだ勝てそうだが)  
今年あと少しとなり トリアルで一年の成長も感じる事が出来ました。今年一年ありがとございました。  
来年も宜しくお願ひ致します。

子供が苦手としている事もよくわかりました。

保護者欄

いつも お世話になり ありがとうございます。  
「親子で育脳トライアル」、楽しくさせていただきました。  
子供といっしょに学習することが なかなかないので  
とても新鮮でしたし、子供もテンション高く楽しんで  
いました。点描写は、子供の方が早く出来る事があり  
びっくりしました。  
子供が苦手としている事もよくわかりました。

高学年の問題をやってみて、さらに成長が楽しみになりました。

保護者欄

父母、姉全員で取り組んでみました。去年とはあきらかに  
違、むしろ保護者側が 負けしたのもありました。答  
合わせで「なるほど」と思っ説明をしてくれアと 成長を感じました。  
高学年の問題をやってみて、さらに成長が楽しみになりました。

このような感想を頂き、ありがたく思います。我が子の成長や、普段気付けていない  
苦手な部分にお気づき頂けたと思います。

親が我が子のことを正しく把握することは、日頃から正しい声かけができる為、正しい  
子育てに繋がります。この一年の我が子の成長、楽しみにして下さい。